

改造EV、県内に広める

産学研究会、部品生産体制めざす



改造電気自動車を運転する佐竹敬久知事一昨年12月、県庁

排ガスを出さず、環境に優しい電気自動車(EV)を、県内の電子機器メーカーや県立大などでつくる「あきたEV研究会」が広めようと活動している。値段の高さがEVの弱みだったが、部品が手に入りやすくなったこともあり、改造EVをつくる動きが全国的に広がっている。

研究会は昨年末、一般のガソリン車をEVに改造した「コンバートEV」の試乗会を県庁で開いた。ダイハツ工業の軽乗用車「ミラジーノ」の中古車を約170万円かけて改造した。ガソリンエンジンを取り外し、代わりに出力7・5キロワットのモーターとバッテリーを組み込んでいる。

8時間の充電で、約50キロの距離を走ることができるという。ハンドルを握り、庁舎のまわりを1周した佐竹敬久知事は「走り出しが静かなので少し戸惑ったが、スムーズに運転できた」と感想を話した。

昨年7月に設立された研究会は、県内で改造部品の生産体制をつくり上げることを目指す。秋田市の自動車販売整備会社社長で、会長を務める鎌田学さん(47)は「秋田が電気自動車の街と呼ばれるようにしたい。地域経済の立て直しにもつながると思う」と話した。

花粉情報

鷹巣	少ない
秋田	少ない
横手	少ない

年度
案内
通科
制
普通コース
江田エ